杉本鉞子と附属幼稚園の紅梅

杉本鉞子（えつこ）は長岡藩の筆頭家老、稲垣平助の六女として 1873 年である明治 6 年、今から約 140 年前に誕生しました。稲垣家は家老職の家柄な故に、明治維新後ではあっても武家の娘として、鉞子は幼い頃から厳格な躾を受けました。明治 19 年に 15 歳で単身上京し、23 歳で結婚のためアメリカに渡りました。

1925（大正 14）年に出版した英語による著書「A Daughter of the Samurai（武士の娘）」は、鉞子の半生を綴ったもので日本の生活が紹介されていることからアメリカ人に好まれベストセラーとなり、７ヶ国語に翻訳されました。この本の出版により、諸外国へ武士の精神について広めることになりました。コロンビア大学にて、日本語と日本文化を教える講師を勤めた初めての日本人でもあります。1927（昭和 2）年の帰国後も執筆活動を続け、76 歳で生涯を終えるまで日米の架け橋となった方です。

当園の梅の木は、東神田町の鉞子の生家にあったものと言われています。したがって樹齢は約 150 年かそれ以上になると思われます。当園は、鉞子の生家であった地に、明治 34 年、長岡女子師範学校附属幼稚園として開園しました。昭和 59 年には現在の学校町の新園舎に移転し、紅梅も一緒に移植されました。このような長い年月を経て、梅は風雪に耐え、園庭で美しい花を咲かせてくれます。

園児たちにこの紅梅の謂れを語り、紅梅を通じて杉本鉞子の生涯とその歴史を知り、生き様を学び、園児たちが主体的に語り継ぎたい気持ちを醸成するように、附属幼稚園では様々な機会に園児たちに働きかけています。